

SER no.046 ; まえがき

著者	岸上 伸啓
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	46
ページ	1-1
発行年	2003-12-26
URL	http://hdl.handle.net/10502/1684

まえがき

岸上 伸啓

本論文集は、海洋資源の利用、管理、流通をめぐる国立民族学博物館で開催された2つの共同研究会の成果報告である。2つの共同研究会とは「先住民による海洋資源利用と管理」（平成11年度から平成13年度まで）と「先住民による水産資源の分配と商業流通」（平成14年度から平成15年度まで）である。これらの研究会は、国立民族学博物館の先端研究プロジェクト「先住民資源問題（開発・利用・管理）」の一部として組織され、実施された。

これまで日本の文化人類学（民族学）においては、漁民社会や漁労技術、漁労活動など海洋資源の開発や利用に関する基礎的な研究が行われてきた一方で、問題解決型の研究はほとんど行われてこなかった。一方、われわれ人類学者が調査を実施している世界各地の周辺地域においては、土地や天然資源の利用をめぐる先住民は関係している国家や地方政府、諸企業と対立関係にあたり、政治経済的に不利な立場にあることが多い。世界各地の地元漁民や先住民は、資源の利用や管理をめぐる困難な問題に直面している。このような状況の中で、先端研究プロジェクト「先住民資源問題（開発・利用・管理）」は、従来の問題発見型の人類学ではなく、問題解決型を志向する応用人類学の新たな試みとして構想された。

対象地域として環太平洋地域とカナダ極北地域を中心に据え、カリブ海や中東地域、アフリカ東岸地域を比較のための事例とした。研究としては、これらの各地域において人々が地元でとることができる海洋水産資源をどのように捕獲し、利用しているか、それらはどのように分配されたり商業流通しているのか、さらに諸資源がどのように管理されているのかという実態を把握し、事例を比較することから開始した。最終的な目的は、これらの成果をもとに資源管理のあり方に関して提言を行うことであった。

本書には、15名の研究者が寄稿しているが、現時点ではいまだ最終的な目的には達していない。ある意味で、本書は、現状の把握と問題の提起のレベルにとどまっているといわざるをえない。しかしながら、若手研究者を中心とした新たな試みの出発点ともいべき論文集である。本論文集が日本の文化人類学における新たな研究分野の開拓につながり、かつ問題解決という実践的な学の形成に貢献することを切に望む次第である。

